

日本共産党を代表し、討論の前に、一言申し上げます。

先日、岸田内閣が発表した軍事費大幅増について、暮らしや社会保障にとどまらず、憲法と平和を壊しかねません。またその財源について、増税にするのか、国債にするのか、という自民党内の争いを演出しても、結局、国民の負担増になることは間違いありません。東アジアの平和は、軍備増強ではなく、外交と話し合いによる平和の枠組み作りでこそ築けるものです。ましてや、物価等の高騰、大震災からの傷が今なお癒えていない今、軍事費増大を最優先すべきではありません。国民のくらしと福祉、教育、そして復興を最優先とする政治への転換を強く求めて、以下、討論を行います。

それでは、議案72号令和4年度流山市一般会計補正予算（第9号）について、反対の立場から討論を行います。

委員会討論でも指摘しましたが、白みりんミュージアム建設をめぐる4億4千万円もの補正予算がなければ、賛成できる内容でした。

いま市民から、「電気も、ガスも値上げ。1日の食事を2回から1回に減らしても、やりくりが厳しい」、「色んな物が値上げに加え、年金は下げられ、医療費の負担は増えて、3重苦、4重苦。政治は何をやっているのか」など、大変厳しい声が寄せられるほど、物価等の高騰がくらしと中小企業の経営をひっ迫させています。

また新型コロナウイルス感染症は、感染拡大期第8波に突入したとの報道を裏付けるように、千葉県内でも新規感染者数直近7日間平均は、10月11日以降、8週連続して増加傾向にあります。この最中、4億4千万円、白みりんミュージアムの建設費を補正予算に加わえるべきなのか、また補正予算第9号の約2割弱といえる金額を白みりんミュージアム建設に割り振ることが妥当なのか、大きく問われるものです。

委員会審査によれば、開業は当初計画を前倒しし、令和5年11月末を予定しています。事業内容は、流山3丁目のキッコーマン敷地内に、建物1階建て、600㎡とのこと。用地費はキッコーマンから30年間の無償提供で好立地であることから、一般来場者用の専用駐車場はもうけず、公共交通による利用を見込んでいるとのこと。年間運営費は、試算もなく、開業してみないとわからないというものでした。

この委員会審査などから明確になったことは、第1に、消防本部移転立替でも、建設資材の大幅な高騰が明確になっているいま、白みりんミュージアムの建設費総額はさらに増額する恐れは否定できません。一方、11月30日「本みりんの記念日」にミュージアム開業を合わせる市の説明では、毎年11月30日はあるわけですから、拙速ともいえる事業化に正当性はありません。第2に、ライフサイクルコストを見込まず建設を急ぐ箱モノ行政…前時代的な発想ですし、本市の道路管理課などのライフサイクルコストを意識した日常業務とも整合性はありません。第3に、財源では地方債を当初見込みの5倍、2200万円から1億1300万円に増やしました。また国からの地方創生拠点整備交付金の2億円も、獲得とい

うミッションにあたった担当職員努力は否定しませんが、財源はやはり国民の税金で賄われるものであり、国民・市民への負担増としてシワ寄せになることはまちがいありません。第4に、運営にあたる可能性が大きい、本市が出資する第3セクター「株式会社流山ツーリズムデザイン」についても、事業計画など会派を超えて疑義が提起されています。さらに、我が党が実施した市民アンケートでも、市民が今最も市へ取り組んでほしいことに、白みりんミュージアムは入っていません。

以上のことから、白みりんミュージアム建設費を含んだ補正予算第9号に反対し、討論を終わります。